

令和7年2月27日

富士見市議会議長 田中栄志様

建設環境常任委員会委員長 小泉陽

所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、所管事務調査として下記の事項について調査を終了したので、富士見市議会会議規則第109条の規定により別添のとおり報告書を提出します。

記

- 1 調査事項 公共交通とまちづくりについて
- 2 実施期間 令和6年4月23日から令和7年2月27日まで

所管事務調査報告書

令和7年2月27日

建設環境常任委員会

委員長
委員
委員
委員

小泉 陽
田中 栄志
山下 淑子
川畑 勝弘

副委員長
委員
委員

今成 優太
熊谷 麗
須崎 悦子

1 調査事項

公共交通とまちづくりについて

2 調査目的

富士見市では、東武東上線の鉄道駅が3駅設置されており市内から都心へのアクセスが良好な環境であり、市内の移動においては民間路線バス、民間タクシーに加えて市内循環バス、デマンドタクシーを利用し移動できる環境となっている。

今後のさらなる住民の高齢化が予想される人口推計を鑑みるに、市内移動のための手段として公共交通についてより充実した環境の整備が期待される。また、公共交通を整備していくに当たっては、市内を移動したくなるまちづくりの観点も考慮することにより、持続可能な公共交通の提供ができるのではないかと考えた。

建設環境常任委員会では、交通運行事業の調査にとどまらず、あわせて交通を取り巻く環境、ひいてはまちづくりに関連した事業についても調査することが市民に寄与すると考えた。そこで、本市における公共交通の現状及び計画を把握した上で、公共交通を考えるに当たりまちづくりの観点を含めた調査を行い、市政に資することとした。

3 調査の実施状況

令和6年4月23日（火）	建設環境常任委員会 ・「公共交通とまちづくり」について調査することを決定 ・議員研修会の実施について決定
令和6年5月2日（木）	議員研修会 テーマ：富士見市の公共交通 講師：都市整備部都市計画課 【概要】 調査開始に先立ち、富士見市における現状を把握し、執行部の考え方を学ぶことを目的として研修を実施した。
令和6年6月13日（木）	建設環境常任委員会 ・行政視察の実施について決定
令和6年8月7日（水）から 令和6年8月8日（木）まで	行政視察 テーマ：公共交通とまちづくりについて 視察先：福島県喜多方市 【概要】 喜多方市地域公共交通会議が運営主体となり

	<p>実施しているA I オンデマンド交通の現状と課題について調査をした。</p> <p>テーマ：公共交通とまちづくりについて 視察先：福島県会津若松市</p> <p>【概要】 会津若松市におけるI C Tを活用した公共交通整備とまちづくりについて調査をした。</p>
令和6年9月17日（火）	<p>建設環境常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政視察報告書の提出について決定 ・意見交換会の実施について決定 ・意見交換会実施要請書及び議員派遣決定要求書の提出について決定
令和6年11月7日（木） 午後4時00分から 午後6時45分まで	<p>意見交換会</p> <p>テーマ：富士見市の公共交通について 対象者：市内で活動するタクシー事業者</p> <p>【概要】 タクシー事業者における経営の現状と事業の課題について意見交換をした。</p>
令和6年12月5日（木）	<p>建設環境常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会実施報告書及び議員派遣報告書の提出について決定
令和7年2月27日（木）	<p>建設環境常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所管事務調査報告書の提出について決定

4 調査結果

(1) 執行部を講師に迎えた議員研修

次の事項について把握することができた。

- ①公共交通機関の現状
- ②基本構想における公共交通の位置付けや役割
- ③現在の市の取組
- ④令和6年以降の市の取組や考え方

これらから、公共交通については運転手不足、高齢者等への対応、狭い道路などといった様々な課題があるため、公共交通をどのようにしていくかについて、コンパクトシティの観点を加えるなど担当課のみならず全庁的に考えていくことが求められることが分かった。

(2) 福島県喜多方市におけるA I オンデマンド交通の取組事例の調査

次の事項が確認できた。

- ①A I オンデマンド交通を導入した経緯
- ②A I オンデマンド交通の事業内容
- ③A I オンデマンド交通を導入した効果
- ④A I オンデマンド交通の運営における課題

これらから、A I 等の最新技術をいち早く導入し市民の利便性向上に取り組んでいることに感銘を受けた。ただし、利便性が向上することでさらなる要望が生じる、国や県の補助金等が減少した際の運営には検討が必要となるといった課題が見られた。

バス会社、タクシー会社が競って運行を希望している、効率的な運行により多く市民の移動が可能となっており、満足度も高く利用者也増加していることから、本市でも事業化を検討する余地があると感じた。

(3) 福島県会津若松市における公共交通の取組事例の調査

次の事項が確認できた。

- ①データ収集、分析と、それを基にした利用者の方との意見交換の経過
- ②地域公共交通網形成計画における4つの重点地区の設定と路線バスの再編の経過
- ③地域公共交通計画による市街地、郊外、広域の交通ネットワークの設定の経過
- ④まちなか周遊バスによる生活交通と観光交通のミックス、運行の効率化と利便性の向上について
- ⑤住民コミュニティバスという地域住民主体によるバスの運行について
- ⑥会津S a m u r a i M a a s プロジェクト協議会によるA I オンデマンドバス運行について

これらから、I C T の活用は会津若松市の強みを活かした取組であり、その上で地域公共交通網形成計画が策定され、現状把握の徹底が各地区に見合った公共交通の確立に結びついていると認識した。

現状をデータ分析した上で、様々な人々の思いが一つになってようやく成り立つものであるという共通認識のもと、市民、団体、行政各々の立場を理解し、どうしていくべきかを具体化しながら議論していく必要があるのではないだろうか。

(4) 市内で活動するタクシー事業者との意見交換

次の事項が確認できた。

- ①富士見市デマンドタクシーの課題
- ②近隣自治体における取組
- ③タクシー配車アプリの利用における課題
- ④市への要望
- ⑤その他の課題や要望

これらから、タクシー事業者の立場から富士見市のみならず近隣自治体の事例も含めた課題や取組状況を伺うことができた。改善等の検討や、本市における導入効果、

事業を継続するための事業者への補助といった他の自治体における取組実績について研究が求められる。

(5) まとめ

本市では、基本構想において公共交通の方向性が提示されており、それに基づいた各種施策が進められている。そして、それによって現状の課題も認識されている。公共交通の整備は全国的な課題となっており、各自治体において様々な取組がされている。視察により調査した取組をはじめ、他の自治体の取組の実現可能性等についても人口規模、行政区域面積などの状況を勘案しながら研究し、本市における公共交通を含めたまちづくりを議会として考えていきたい。